

葦 森 の 風

地域学習発表会

今年の「地域学習発表会」は、例年以上に、新しい試みやアイデアが見られた発表会だったと感じました。先日10月17日(金)、岡山市ESD世界会議推進局の流尾さんや、東原市議、連合町内会長さん等、足守地域の多くのご来賓をお招きして、工夫や熱意溢れる地域学習発表会ができた嬉しく思います。

今年度の発表では、例年と異なった特色がいくつかあったと思います。

一つは、今年、岡山市でESDの世界会議が開催されることもあり、生徒の意識の中にも、例年以上に世界へ目を向ける気概があったことだと思います。二つめは、足守地区の連携教育を推進する活動として2小学校の「調べ学習」の発表ができたことです。三つめは、舞台発表と展示発表の両面で、3年生全員が、最後まで参加できた点だったと思います。そして、四つめは、これまでの先輩たちが取り組んできた研究を、引き継いで発展させようとしたり、先輩たちの成果で、良いものは、そのまま利用していたことだと思います。このことは、継続していく点において、とても素晴らしい取り組みだったと思いました。

ご来賓の方々も、たいそう感心されていました。関係してくださったみなさんに感謝したいですね。



【進行役も大活躍】

【小学6年生も参加】

【地域の資源を生かして】

【落ち着いた発表】

【展示物蛍の工夫】



【連長さんご意見を】

【多くのご来賓を前に】

【蛍明小の発表】

【小学生も展示を一緒に】

【真剣に楽しく】

地域協働学校運営協議会委員さんからの提言

『「正解」から「納得」の時代へ』

足守中学校地域協働学校運営協議会
委員 御船 宗一郎



先日、津川校長先生とある講演を聴きに行きました。講演と言っても、講師本人は東京駅近くの丸の内の会場で講演をしており、衛星放送でリアルタイムに、各県の会場(岡山会場は岡山商科大学)でサテライト放映されるシステムです。

講師は藤原和博氏で、現在59歳の自称「教育改革実践家」です。東京大学経済学部を卒業後、リクルートに入社し、最終的には営業統括部長、新規事業担当部長等も務め海外勤務も経験しましたが、47歳の時に東京都初の公立中学校長の民間登用に応募し、以後5年間、杉並区立和田中学校長を務めた人物であります。

民間企業出身の校長先生らしく、斬新なアイデアで和田中学校を変えて行きます。実社会を知らない中学校の生徒達に「ハンバーガーを100円に値下げしてもマクド(関東では「マック」らしいです。)が儲かるのはなぜか?」と、その原価計算に至る仕組みを教える『よのなか(科)』という授業で世の中でのキャリア教育を養う授業を行うとか、近隣の進学塾や大学生と連携した夜間塾「夜スペ」による取組で、生徒たちの意識を変えていきます。

教育には色々な型があると思います。藤原氏の教育改革は斬新であり、とても興味深いものではありませんが、都会では可能でも、田舎では困難な状況であることも事実であります。今後も、我々に与えられたその状況の中で、最善の選択をしていきたいと思えます。

最後に、この講演の中で最も印象に残ったフレーズを紹介したいと思います。今までの社会は「情報処理力」が重要であったが、これからは「情報編集力」が大事というものです。

前者は、正解がある質問をいかに早く処理するかという能力で、後者は色々な状況からみんなが納得する答えを導けるという能力です。例えていうと、前者は『ジグソーパズル』で、正解の場所はたった1つです。それに対し、後者は『レゴブロック』で、1つ1つのブロックはシンプルで小さいが、花にも宇宙船にもなるというものです。

現代の成熟社会においては、それぞれ一人一人が頭を柔らかく持って、正解のない問いから答えを見つけ出していかねばなりません。

他人から納得してもらおう前に、まずは、自分が納得出来る選択をしていきたいものです。